

資料 2

2) 人口動態の将来展望

a) 目指すべき姿

将来展望を行うにあたり、「活力ある地域コミュニティの維持」を目指すべき姿とし、2060（令和 42）年までの人口動態の推計を行う。

b) 独自推計（2024）にあたっての考え方

大刀洗町では 2015（平成 27）年度に大刀洗町人口ビジョンを策定し、人口動態の将来展望、目標人口を示した。（以下、独自推計（2015）という。）

その際の「活力ある地域コミュニティの維持」のために「地域に子どもが一定数いて、健やかに成長できること」を構成要素のひとつとしてあげ、2040（令和 22）年においても、各小学校 120 人以上を維持※するためには必要な出生率（＝出生率の目標）を試算し、その場合の人口動態を推計した。

独自推計（2015）

	2010 年	2015 年	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年	2045 年	2050 年	2055 年	2060 年
合計特殊出生率	1.55	1.555	1.60	1.65	1.70	1.80	1.90	1.95	2.00	2.00	2.00
目標人口	15,284	15,138	14,943	14,715	14,453	14,171	13,854	13,509	13,180	12,870	12,570

※ 1 「多自然町村の持続可能モデルに関する調査研究報告書」（総務省 2013.3）抜粋

『地域が持続・維持するための人口の仮説として、地域の中に小学校が最低 1 校で生徒数が 120 人以上（各学年 20 人以上を仮定）を維持できる人数を設定』

※ 2 ※ 1 の「地域」を、大刀洗町における現在の小学校区と読み替える。

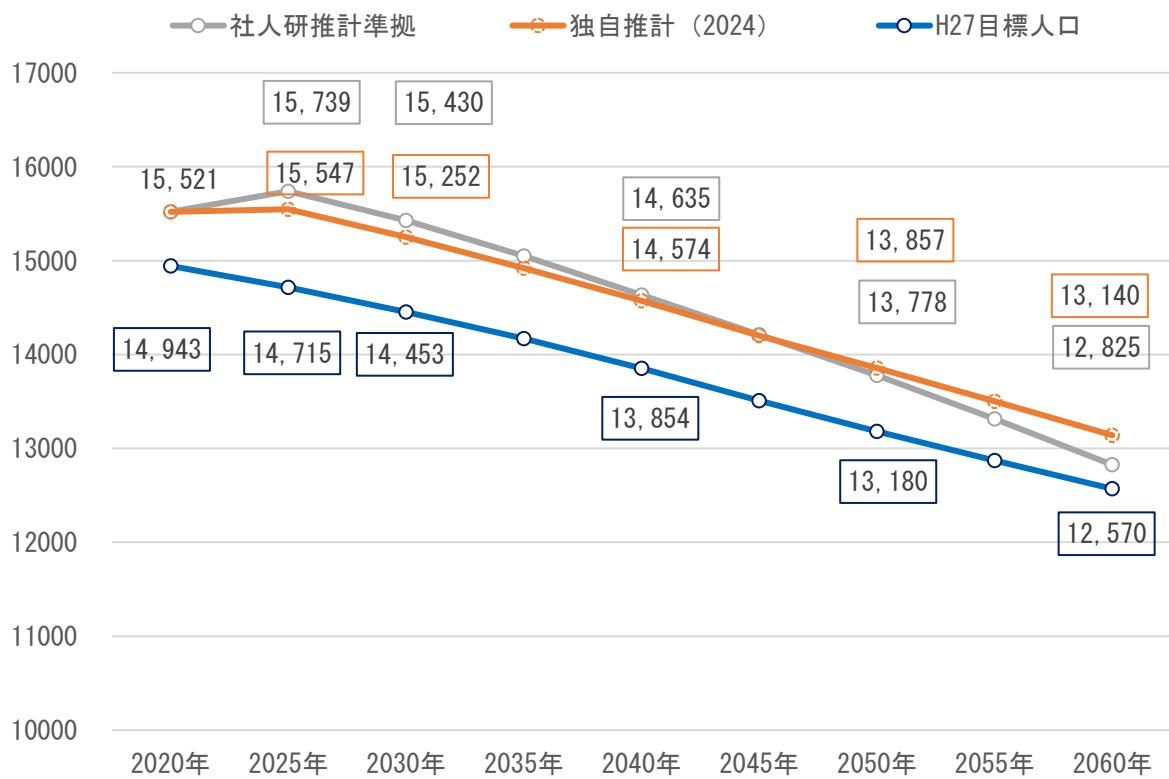
2020（令和 2）年国勢調査をもとに国立社会保障・人口問題研究所の示した 2023（令和 5）推計人口は、2030 年で約 970 人、2040 年で約 780 人、独自推計（2015）の目標人口の推計を上回っており、現状との乖離が生じていた。

そこで、国提供のワークシートを活用し、新たに独自推計を行った。

c) 将来の展望

新たな独自推計では 2020 (令和 2) 年国勢調査や概ね過去 5 年間 (2019-2025) の人口動態や独自推計 (2015) を踏まえた次のとおり仮定を設定し、将来人口を展望する。

自然増減に関する仮定	独自推計 (2015) で示した小学校 120 人以上を維持※するため必要な出生率 (=出生率の目標) を将来の出生率として仮定した。なお、2025 年の合計特殊出生率は直近値 (2023 年) である 1.36 とした。
社会増減に関する仮定	2020 年—2025 年は社人研推計の移動率で推移し、2025 年以降、社会増減は均衡すると仮定した。



	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年	2045 年	2050 年	2055 年	2060 年
合計特殊出生率	-	1.36	1.70	1.80	1.90	1.95	2.00	2.00	2.00
目標人口	15,521	15,547	15,252	14,919	14,574	14,200	13,857	13,503	13,140